

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社安寿		
事業所名	グループホーム花咲小町		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	令和7年1月14日	評価結果市町村受理日	令和7年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102848-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和7年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム花咲小町の理念である「自然の恵みを受けてありのままに」の精神の意味とする、新鮮な空気・太陽の光・暖かさ・清らかさを適度に保ち、食事を適切に管理することによりご利用者様の生きる力を引き出し、心身の活性化に繋がれること。そしてご利用者様のありのままを受け入れ、最後までその人らしい人生を送ることができるように支援します。終末期はご家族と一緒に過せるように配慮し、安らかな死をご家族様に見守られながら迎えられるように、職員一同、尊厳と誠意を持って援助させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、職員と共に事業所に隣接する小町農園で野菜を育て、収穫を楽しんでいる。収穫した野菜も活用し、職員が家庭的な食事を手作りして提供している。夏祭りや芋煮会などは、家族にも参加を呼びかけ共に楽しめる行事として実施している。利用者の日々の様子は、便りやLINEで家族に伝えながら、家族の信頼を得られるよう努めている。管理者は看護師でもあり、協力医との密な連携で利用者の健康管理に努めながら、終末期も家族が利用者と過ごせる時間を支援し、チームケアでの看取り体制を整えている。職員の資格取得を奨励しており、研修受講の為に配慮や勤務調整等を行いながら、人材育成に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然の恵みを受けてありのままに」を理念に自然豊かな地域の中でご利用者様のありのままの姿を受け止め、ご利用者様に寄り添い、喜びや生きがいを感じることができるよう日々の暮らしの中で支援している。理念は玄関などに掲示してある	理念は玄関等に掲示し、職員は日々、自分の役割を確認しながら利用者の残存機能を引き出し、自然の中で生きる喜びを実感できるよう支援している。毎月の職員会議等で、理念を正しく実践できているか、日々の支援の振り返りを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者は地元住民であり、また、ご利用者様の多くも地元の住民である。地域の行事には、住民の一人として参加しており日常的に交流している。地域のケア会議やいきいきサロン等にメンバーとして参加している。	管理者は地元住民でもあり、地域のケア会議やサロン等にはメンバーとして参加している。また、事業所は、福祉の相談窓口としての役割りを担いながら、地域貢献に努めている。利用者が近隣を散歩する際には、住民と挨拶を交わしながら交流している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、会議メンバーである市担当者や地域包括支援センター、自治会長、民生委員や家族さまなどから意見や助言を求めている。 会議日を施設行事に合わせ、一緒に参加していただいている。	運営推進会議は、参加しやすいよう行事と併せて行うなど工夫している。行政担当者や民生委員、自治会長、家族等が参加し、行事報告や今後の予定を伝え、意見交換を行っている。意見やアドバイスを運営に反映させ、サービス向上に繋げている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の内容を書面で報告し意見を求めている。運営状況や感染予防対策なども報告し助言を得ながら協力関係を築いている。	行政からは、地域高齢者の現状や介護保険制度の動向についての情報提供や感染症対策等の指導・助言があり、運営に活かしている。管理者は行政と様々な関わりを持ちながら、福祉の相談窓口的役割りを担い、良好な協力関係を築いている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに努め身体拘束廃止についての理解、拘束の阻害等の研修を定期的に行い理解を深めている。常にご利用者様の視点にたち、適切なケアを実践し安心・安全な支援に努めている。	身体拘束等の適正化委員会を定期的に開催している。毎月のカンファレンス会議に併せて、全職員参加で勉強会も行っている。利用者に外出の要望が強い場合は、不穏にならないよう思いに寄り添い、適切な支援を行っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者の指導のもと、入浴時の身体状況や小さなケガなど無いか観察し、職員間の情報共有等により早期発見に努めている。	虐待防止委員会は、身体拘束等の適正化委員会と併せて行っている。職員は日々、利用者の身体を注意深く観察し、小さな事でも見逃さず情報を共有している。管理者は職員の顔色や様子の変化を見逃さないようコミュニケーションを図りながら、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の研修にて成年後見制度を学んでいる。ご家族様から相談されることもあるので資料を参考にアドバイスをしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはご利用者様やご家族様の不安や要望をお聞きし、書面を持って説明をしている。また、ホーム内の雰囲気や職員の態度等も実際に見て頂いている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事予定表と「花咲小町便り」を毎月送付し行事の様子や日々の暮らしがわかるよう掲載しお知らせしている。また、ご家族様が面会に訪れた際には、職員が声掛けし、生活の様子等をお伝えし意見や要望等を聞くようにしている。LINE活用もしている。	運営推進会議に参加した家族から、意見や要望を聞き、運営に反映させている。面会時にも職員が声掛けし、希望等を聞いている。毎月発行の便りには、利用者の笑顔や楽しそうな活動の様子が分る写真を掲載し、LINEアプリも活用しながら、家族との信頼を深めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は普段から職員と一緒に現場に入り日常的にコミュニケーションが図れており、意見交換を行っている。職員の気づきやご利用者様についての課題などを把握しご利用者様本位のケアを実現できるよう情報共有し支援できるように努めている	管理者は日頃から現場に入り、職員とコミュニケーションを図っている。開設当初からの職員も多く、気軽に意見や要望が言える関係性である。職員の意見には必ず耳を傾け、検討しながら改善に繋げ、課題があれば、その都度見直している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	健康状態、仕事と家庭や育児の両立などワークバランスに配慮し働きやすい職場作りに努めている。また、メンタルサポートに取り組んでいる。福利厚生も充実している。	産休や育休を取得する事ができ、管理者は職員一人ひとりのワーク・ライフ・バランスに配慮しながら、職場環境を整えている。休憩室は特に設けていないが、休憩時間は適切に確保でき、私用での外出も可能としている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度の導入。職員一人ひとりに業務の分担があり、責任ややりがいにも努めている。また、資格取得や研修等は個人の経験や能力に応じ参加している。日程調整をし、費用は会社が負担している。	代表、管理者は資格取得を奨励し、研修受講への時間的配慮や費用負担を行っている。有資格者には資格手当もある。キャリアパス制度を導入し、職員の経験や能力を活かして、質の高い支援を行えるよう職員の育成に取り組んでいる。	認知症状の進行から、暴力的な発言や行動を伴う利用者も見られるようになり、その時々への対応を、職員それぞれが専門的な知識を持って介入できるようスキルアップをめざしている。さらに知識が深まることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や会議をして知り合った他施設の方の見学や意見交換ができるように便宜を図り、サービスの質の向上に反映していく取り組みをしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様のありのままを受け止め、喜びや生きがいを感じることができるよう「介護する・される」という関係ではなく「共に学び・支え合う」という関係を築き安心した生活を送ることができるよう心掛けている。一緒に生活することで介護者も日々学ぶことが多くある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の生活歴や人生経験を知り一人ひとりに寄り添い、表情やさりげない会話から思いや要望を把握するよう心掛けている。困難な場合はご家族様の情報や意見をもとに、本人の思いを想像し問いかけながら行っている。	入居時に家族と利用者から、これまでの生活歴等を聞き、その人に合ったケア方法で支援している。利用者が自分の思いを安心して言葉に出せるまで、時間をかけて信頼関係作りに努めている。知り得た情報は職員間で共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がご利用者様の状況や課題点をまとめサービス担当者会議及びケースカンファレンスで持ち寄り職員全員で検討し共有している。また、ご利用者様とご家族様の意見や希望を取り入れプランを立案し、必要に応じて柔軟に見直しを行っている。	介護計画作成前に、家族に利用者の状態を報告し、面会時にも話し合いながら要望を確認している。サービス担当者会議で、計画内容が今の利用者の状態に適切であるかを検討し、必要に応じて見直している。作成会議には、家族の参加もある。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事や気づきを個別記録に記載しケアの実践やその時々の変化を職員で共有し、見直しや評価に活用している。「申し送り表」を用いて職員全員が日々情報共有している。	毎日、利用者の状態を個別記録に記載し、職員間で記録内容を共有し、支援している。出来たことが出来なくなったり、出来なかったことが出来るようになった等も記録に残し、申し送り表も日勤から夜勤に渡し情報をつなげている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご利用者様の心身の状況やその時のニーズに合わせて臨機応変にできる限りサービス提供に取り組んでいる。病院受診や重度化したとき、終末期・看取りを医療との連携に於いて実現している。	利用者の要望があれば、買い物の付き添いをしたり、家族に代わって受診同行支援を行っている。利用者・家族のニーズに合わせて、医療機関と連携しながら、より良い終末期・看取り支援を実施出来るよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方やボランティアの方々の協力のもと一人ひとりが社会の一員として安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように事業所全体で支援している。散歩に出かけ、地域の方との交流ができるようにはたらきかけている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の説明をしご本人・ご家族様の希望を優先している。医療機関の受診は看護師が同伴しご家族様と一緒に説明を受け医療情報を共有し、緊急時は医師と看護師が連携し適切な医療を受けられるよう支援している	契約時にかかりつけ医についての事業所の方針を説明し利用者が選択をしている。協力医は月2回の往診があり、かかりつけ医の訪問診療も受け入れている。看護師が利用者の日頃の健康状態を把握し、病院受診の際は家族と一緒に付き添い、受診結果を共有している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際には、看護師が必ず付き添い情報を共有している。入院中も病院主治医・看護師・ケアワーカー等と連携し早期退院に向けて話し合っている。	入退院時の手続きや支援は、看護師が対応している。家族や医療機関と連携し、入院中の利用者の状態を把握しながら、早期退院に向けて話し合っている。退院後も、ホームで安心して暮らせるよう、受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期についての指針を説明しご本人やご家族様の意向を尊重し状態の変化に応じ医師や関係者と話し合い最後までその人らしく穏やかに過ごせるように支援している。医師・看護師・介護職員が24時間体制で連携しご家族様の思いを組み看取りケアを行っている。	契約時に、重度化や終末期の対応について事業所の指針を説明し同意を得ている。本人・家族の意向を確認し、医師、看護師、介護職員がチームとなってケア体制を整えている。職員は看取り研修と共に、多くの看取り経験を重ねており、家族の思いに寄り添いながら、支援に取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが作成しており、緊急時に適切な行動ができるように研修を行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。夜間想定を含めて、火災・地震の防災訓練を通して全職員が器具の取り扱い、関係機関への通報・避難誘導など確認している。運営推進会議時に実施し自治会長やご家族様の参加もあり協力体制を整備している。	年2回夜間想定を含め、火災・地震等の通報訓練や避難経路の確認等を行なっている。訓練後は、運営推進会議で報告し助言を得ている。BCPを整備し、様々な対策を話し合っている。車椅子利用者が多くなり、安全に避難誘導ができるよう、近隣との協力体制や環境作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の生活歴や価値観の違いを尊重しながら寄り添い本人の気持ちを引き出すように努め、信頼関係を築いている。排泄支援や入浴の際には特にプライバシーに配慮し援助している。	勤続年数の長い職員が多く、利用者との関わりも長い。利用者のプライバシーを侵すことのないよう、会話の内容や言葉遣いには特に注意している。入浴や排泄介助時は、特に羞恥心に配慮し、誇りを損なわない対応に努め、先輩職員が新任者に手本を示している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での自己決定を優先し、言葉で表現できないご利用者様でも顔の表情や仕草、全身での反応を注意深く観察・想像し、ご本人が主体性を持って生活ができるように心掛けている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、その人らしい暮らしが送れるように可能な限り柔軟な対応をし、混乱することなく安心・安全に暮らせるように支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した旬の野菜も活用しながら、ご利用者様の好みや嚥下機能・疾病などに合わせた食事形態で提供し、季節や行事がわかる食事を職員も一緒に食べながら会話を楽しみ雰囲気を大切にしている。	畑で収穫した野菜も利用しながら、調理専属の職員が三食手作りで提供している。利用者にも調理の様子や料理の匂いが分かる環境であり、食べる事への関心に繋がっている。職員は、利用者を見守りながら同じ物を食し、味の感想を聞いて次のメニューに繋げている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃から体調や体重の増減を記入し、一人ひとりの好みや食事の様子を観察記録し、栄養に偏りや水分不足にならないように、個々に応じた食事形態で提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアだけでなく、定期的な歯科メンテナンスを必要な方に行い口腔内の清潔保持が出来るように支援している。治療が必要な時は訪問歯科診療を受けることができる。	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来る人は磨き残しがないか確認し、出来ない部分を職員が介助しながら、清潔保持に努めている。歯科医の指導もあり、利用者の状態を家族に伝え治療につなげている。訪問歯科診療を受けることもできる。	

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの身体状況や排泄パターンを把握し個々にあった排泄方法やオムツ等を選択し、必要な補助具や介助を見極めて支援している。夜間はご利用者様の状態を見ながら安全面と安眠に配慮し支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日はある程度決めてあるが、ご利用者様のその日の体調や気分に合わせて柔軟に対応している。コミュニケーションを図りながら、個々の思いに寄り添う入浴支援に努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムやその時の状況に応じ、睡眠環境を整えて安心して眠ることが出来るように配慮している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報を確認し個別にセットしてある。誤薬や飲み忘れを防ぐ為に、その都度、名前・日にちを確認している。また、状態変化にも十分留意している。薬事情報は個別カルテにファイルし、いつでも確認できるようにしてある。	薬は2週間分が処方され、管理者が個別にセットし管理している。服薬時は職員が利用者の名前と日付けを確認し、飲み込むまで見届けることを励行し、飲み忘れや誤薬を防止している。薬の変更時は、管理者が職員に説明し、利用者の変化に注視するよう指導している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ、カーテンを開ける、新聞を折るなど、個々の能力を活かした役割を継続できるよう支援している。また、今までの趣味が継続でき、楽しみと生きがいを持って暮らせるように働きかけている。	恒例の干し柿作り、洗濯物たたみや野菜の下ごしらえ、日常の軽作業などで、利用者の残存機能を引き出し、できることでの役割を担えるよう支援している。作業後には感謝の声かけをし、利用者の張り合いや生きがいに繋げている。個々の趣味の継続も支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常は体調を考慮しながら、天気の良い日には施設周辺を散歩や近隣神社への参拝、また、テラスで外気浴などを行い季節を感じるようにしている。個別の外出は家族様付き添いの元、感染対策を考慮して行なっている。	広い庭で外気浴を楽しんだり、周辺を散歩している。家族の面会時に、一緒に散歩する人もある。外出の際には、感染症対策を継続した上で行なっている。出掛けることが困難な利用者も、夏祭りや芋煮会では、家族とゆっくり過ごせるよう支援している。	

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じ自己管理されている方もいる。お金に執着される方には、ご家族様の納得のもと少額を持っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族様の希望に応じ電話やオンライン面会を行っている。また、暑中見舞いや年賀状を職員と一緒に作成しご家族様に思いが届くように支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアは外の景色を眺めると季節を感じることができ、ご利用者様が作った作品が展示されている。同フローアで食事を作る音や匂いも感じることができ、五感を刺激し一人ひとりの感覚や価値観を大切に安心してくつろげる空間を保てるよう配慮している	窓越しに外の景色を眺め、季節を感じることができる環境である。小町農園で花や野菜を育てながら、穏やかに過ごしている。フロアには利用者の作品を展示し、季節の花を飾るなど、居心地よく過ごせる場となっており、利用者は、広い共用空間の好きな場所で自由に過ごすことができる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの性格により気に入った場所があり、会話を楽しまれる方、落ち着いて穏やかに過ごすことを好まれる方、新聞を読みたい方など、それぞれにあった空間を作り、思い思いに過ごして頂いている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋がわかりやすいように工夫し、本人が安心して暮らせるように馴染みの家具や小物、寝具を持ち込んでいる。思い出の写真、散歩途中のつけた野の花など飾ったりして居心地よく過ごしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況を見極め、出来ることを継続して行えるように環境の整備や補助具等を取り入れ安全に暮らせるように配慮している。		